

令和元年度 第2回 多摩市スポーツ推進審議会 会議録（要旨）

■開催日時 令和元年7月26日（金） 午後4時～6時30分

■開催場所 関戸公民館第1学習室

■出席委員 8名

小林 勉委員、永吉 英記委員、甲田 不二男委員、岩井 啓子委員、石川 秀明委員、齋藤 裕委員、若月 寛子委員、佐々木 雅士委員

■欠席委員 伊藤 智子委員、中村 一昭委員

■事務局

小林部長、小泉主査、加藤主査、杉山主事、植村主事  
（株）地域計画建築研究所 東京事務所 黒崎氏 遠藤氏

■傍聴者 なし

■議事次第

- 1 開会
- 2 会議録（要旨）確認
- 3 議事  
(1) スポーツ推進計画（素案）について
- 4 その他
- 5 閉会

■配付資料

- 資料 1 令和元年度第1回多摩市スポーツ推進審議会 会議録（要旨）  
資料 2 多摩市スポーツ推進計画（素案）（令和元年7月18日時点）  
資料 3 屋外体育施設健全度調査結果概要

## 会 議 録 (要旨)

### 【1 開会】

当日配付資料について事務局より確認

### 【2 議事】

#### (ア) スポーツ推進計画（素案）について

資料2、3に基づいて事務局より説明。

会 長：資料3の屋外体育施設健全度調査結果概要について意見はあるか。意見がなければ、素案の内容に入っていきたい。

事務局：素案の議論の参考として配付している。素案の議論の中で質問してもらっても良い。

スポーツ推進委員や体育協会に実施したスポーツ推進計画素案に関するヒアリングの内容について事務局より説明。

会 長：本日のポイントだが、次回8月8日の審議会では今日出した議論をほぼ確認する形にしたいので、本日は素案に対する賛否や意見を出してほしい。

委 員：計画書を誰に読んでもらいたいのか。一般の人に読んでもらいたいのなら、もっとわかりやすくした方が良い。

会 長：両義性がある。市民にも読んでほしい面と市長の諮問に対する答申という面がある。通常の計画と比較すると、市民が読むことをかなり意識してわかりやすく工夫されていると思う。事務局としての考えを聞かせてほしい。

事務局：だれにでも読んでほしいと考えている。行政の文章は中学校2年生が理解できるような内容でまとめるとよく言われている。わかりやすい表現への修正や、コラムを入れるなどしてわかりやすくなるよう工夫している。

委 員：スポーツの効果をどこかに記載した方が良いのではないかな。

会 長：効果については、6頁にまとめている。

委 員：コラムの中に、紹介したスポーツによる効果を書いた方が良いのではないかな。サッカー協会のウォーキングサッカーの説明が参考になると思う。参考までチラシを持参したので確認してほしい。

会 長：このチラシには「ウォーキングサッカー！はじめませんか？」という案内文あるが、「ウォーキングサッカーってどんなスポーツ？」という欄に、イングランドで始まっていることや、走ると反則といったルールについての説明があり、また「有酸素運動でもありながら、通常のウォーキングの3倍以上の消費活動量があります」や「効率的、新陳代謝もあがりダイエットを始めたい方にもオススメです」といった箇所に赤字で下線も引いてあり、見やすい。異論がなければ、このようにダイレクトに伝わるような具体的な効果を記載するのはよいか。

事務局：30頁の高齢者のコラムでウォーキングサッカーについて載せている。全国では、本市が一番ウォーキングサッカーを行っていて、23区などからも楽しみに来る人がいる。

委 員：最初は高齢者が参加するだけであったが、だんだん若い人も参加するようになっている。

会 長：コラムでは、施策で説明しているスポーツへのイメージを持ちやすくすることを意識して作成

するということが良いか。他に意見はないか。

委員：市民が読んだときに、知らないスポーツでもコラムを見てやりたいと思うものがあれば、そこは読むと思う。思っていたような堅い計画書ではなかったが、読み進めると難しい言葉が使われていることもあるので、その場合コラムがあるとわかりやすくなる。一番伝えたい箇所は6頁の「4 スポーツの基本的な考え方」「1 スポーツの力」についてであるという話だったので、楕円形でカラーにするなど、視覚に訴える工夫があると良いと思った。8頁の「3 スポーツへの関わり方」の図もわかりづらく、説明を聞いてわかった。今まで自分たちがスポーツだと思っていなかったことがスポーツになるという趣旨をもっとわかりやすくするために、図と文章をリンクしても良いのではないか。11頁の「1 多摩市のスポーツの特長は、「豊かなスポーツ」はより上位にきても良い。13頁の基本目標のイラストが小さいと思った。15頁では施策の柱のイメージについて図が挿入されたが、まだわかりづらい。50頁にカルティベーションの説明があるのが良い。わかりづらい言葉なので注釈があっても良い。

コメント：イラストと施策の柱はこれからデザインしていく予定である。

会長：今委員が指摘した検討すべきことを、ひとつずつ議論していきたい。8頁の「3 スポーツへの関わり方」についてだが、「●●●スポーツ」や「▲▲▲スポーツ」と「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の表記があるが、現時点で審議会としてこのスポーツもあった方が良いというものがあれば検討したい。この議論に尽くせないところもあるので、これから新たに育んでいきたいということを文章化していく形になると思う。委員から意見はあるか。

委員：文言は別として、「つくるスポーツ」「はたらくスポーツ」「紹介するスポーツ」などが考えられる。「つくるスポーツ」では商業的なものを取り込めるのではないか。今はダイエットに関心が高い人も多いので、商業的なイメージでつくるスポーツは広がると思う。「はたらくスポーツ」であれば、スポーツの指導員などスポーツ関わる仕事を増やしていくといったこともあると思う。「紹介するスポーツ」は広報活動も含み、市内のスポーツに関するアプリをつくりデザインもして、本市出身の有名なスポーツ選手を紹介するのもよいのではないか。資料を見た際に、看板になるスポーツ選手が載っていると目を引いて読みやすくなると思う。

先日、オリンピック自転車ロードレースのテストイベントがあったが、ロードレースの先導車がいて、スタートの車が全部通り過ぎるまでは30秒ほどと短い。真ん中の山場はたったの4～9秒だが、その間にどのように観戦して盛り上げて応援するか、そういった工夫も大事ではないか。短い中に面白さを見つける、それを本市で考えられたら良い。想像性を膨らませるという点では「●●●スポーツ」の表記があるのは良いと感じた。学校にもしばしば計画書などが配付されるが、堅い表現のものが多くなかなか読むのが難しい。力を入れるなら、目に留まるようなものにしたい。本市にゆかりのある著名人を活用するものひとつである。

会長：著名人の活用について、事務局はどう思うか。

事務局：検討したい。

委員：先日のロードレースも、本市出身の選手がいればもっと観客数は増えたと思う。

委員：ロードレースは盛り上げ方の工夫が必要である。

委員：観る場所によって、楽しめるところとそうでないところが出てきてしまう。

会長：著名人を活用するとインパクトがあるが、コストがかかることなので、事務局で検討してもら

いたい。先ほど意見のあった、視覚に訴えるようなレイアウトについても、次回までに強調できるところはしてほしい。本日は一番議論したいのが、「●●●スポーツ」をどうするかだが、わかりづらいと思うので、余白に、例えばこんなスポーツ、というように例示するとイメージしやすくなり、読みやすくなるのではないかと。

コンサルタント：例示するというのは有り得ると思う。以前、他市で計画策定の業務支援をした際に、市の課題は、自然は多いが、働く場がないということなので、ボルダリングなどで働く場所をつくる「稼ぐスポーツ」という言葉をつくった例がある。その文言を入れるかどうかの検討の際には、庁内で喧々諤々の議論になったが、結果、計画書に入れることになった。似たような発想で、本市らしいスポーツが入れば良い。余白は残したいという発想があるので、あえて今は決めないが、イメージできるように例示する工夫ができればと思う。

事務局：「あなただったら何のスポーツを入れますか」という呼びかけの内容を入れてはどうか。

会長：良いアイデアだと思う。先ほどの他市の事例では「稼ぐ」というコンセプトだったが、本市だったらどうするか、というコンセプトにして、先ほどの話にあった「つくるスポーツ」のような内容を8頁に入れるのはどうか。かつ、新たに育んでいきたいという、皆さんに委ねられているという内容が伝わるようにすることでいかがか。

委員：わかりやすく矢印などを記載して示すことも良いと思ったが、その案の方が良い。商業スポーツは「働くスポーツ」と考えてよいのか。八王子市でトランポリンなどの商業施設ができたが、本市でもトランポリンやダーツなどができる場所が増えれば、スポーツする人は増えると思う。それがスポーツだと気づいていない人もいるので、伝えることも大事だと思う。

事務局：東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が行われるので、大会を経験した市民からどのような新しいスポーツの関わり方が出てくるのか期待している。観るスポーツから運営する側になっていくこともあるのではないかと考えている。

委員：青梅マラソンでは、小学生がTシャツを作って売っており、売れていると聞く。

委員：13頁「3 基本目標」に「スポーツで創り出す「みんなが笑顔」でつながるまち多摩」とあるが、8頁の「3 スポーツへの関わり方」が、13頁の基本目標への「創り出す」につながるように、キーワードとしてヒントのようなものになる工夫があれば良い。

会長：基本目標について他に良い考えはあるか。無いようなので、本日のところはそのままとする。また、11頁「1 多摩市の主な特長・課題」については、「豊かな自然環境」という項目がもっと上位に移動させた方が良いという意見があったがどうか。

委員：一番である必要はないが、現状より上位にした方がよい。

委員：「市民活動が活発な地域性」が一番上に来るべきである。

委員：その通りだと思う。では、その次に「豊かな自然環境」を持っていきたい。

会長：異論がないようなので、そのようにしたい。49頁「実現化方策」で使われているカルティベーションという言葉について、「コミュニケーション」や「コラボレーション」と比べると馴染みのない言葉であるが、「耕す」という前へ進んで道を切り開くような意味があり、適当ではないかという議論になった。また、これら3つの言葉の英語のイニシャルがCから始まるので、「3C」といったキーワードとなる。

コンサルタント：前回の審議会で、スポーツ推進といった時に、いわゆる体育会系だけでなく、静かな気持ちでゆっくり時間を過ごし生活を楽しむ、そういう中にスポーツを取り込む、あるいは文化とうま

く融合させる、といった意見が委員から出されたので、その考えに応えられるように考えた言葉である。

委員：心、文化、生活の向上といった意味合いについて説明があると良い言葉だと感じる。

委員：「実現化」という言葉が難しい。例えば、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を実施するといった時、開催した後のことも考えなければいけない。スポーツを継続して根付かせなければいけないので、そういった言葉として適当なものを選ぶべきだと思う。

会長：カルティベーションも実現化方策という言葉も、いずれも市民に馴染みのない政策用語である。

コンサルタント：施策は何をするかの「what」にあたる。実現化方策は「what」をどのように進めるか「how」と考えてほしい。計画書では一般的な考え方になっている。実現化方策という言葉については、今までの委員の議論を踏まえ、終点を示すのではなく、これから継続・推進していくというニュアンスが伝わるように「実現化に向けて」などの表現が良いと思った。事務局で再検討したい。

委員：50 頁の図にあるが、3つの言葉が相乗効果を生み出し、計画の実現に向かうという図の意味にあった言葉にならなければいけない。

委員：計画書を作っただけでそれで終わりにしてはいけないということだと思う。実現化方策はいわゆるプロ用語だと思うが、市民向けの用語にした方が良い。例えば、キックオフという言葉はどうか。

委員：実現化方策は全体が堅い表現になっている。良いことが書かれているが、市民に読んでもらわなければいけない。

会長：計画書とは別に、市民にとってわかりやすいものを概要版として作成するというのはどうか。

委員：会長の言う通りだと思う。今回の素案に記載されている今後のスケジュールに、概要版をつくと記載されているので、計画書では難しくても、概要版は読みやすくするということが良いと思う。

会長：事務局の考えを聞きたい。

事務所：8月にはパブリックコメント用の素案をつくる。概要版はその素案のダイジェスト版になるので、パブリックコメントで市民の反応を見て検討したい。

会長：一般的な計画書と比較すると、随所に読みやすい工夫がされていると思う。この審議会で議論する内容ではなくなるが、別途手引書のような形で、イラストや漫画を挿入するなど市民がわかりやすいものを冊子としてまとめるといった対応は可能か。

事務局：あり得ると思う。来年度以降、一事業として進めることもできる。まさに、実現化方策の「情報提供の受発信」の部分にあたる。努力したい。

委員：18 頁までは、行政計画のようなつくりになっていて重要な部分だと思う。19 頁からの「施策の展開」は、コラムや写真があったりして一般の人にもわかりやすくさせていくべきである。市民も、施策の展開から読み始めると 18 頁までの内容が理解しやすくなると思う。

委員：実現化方策の 3C の意味を、最初の部分で平易な形で説明すれば良いのではないか。

会長：19 頁の「施策の展開」で、トーンを柔らかくすることでバランスをとってはどうか。今後については現段階では未確定だが、市民の反応を見て、わからないという意見が多ければ、5年後の施策の見直しのタイミングで、手引書のようなものを作成すれば良いのではないか。実現化の中で検討すると良い。政策というものは、国の計画、東京都の計画、本市の計画というよ

うに構造的な部分があり、自治体でもその考え方は重要視されている部分をご理解いただきたい。そういう意味で、この計画書は学習にも利用できると感じていて、教育関係の委員には教科書として使っていただきたい。私は自分の学生に読ませたいと思っている。学生などが読みやすいように、「施策の展開」をより柔らかく書くのは良いことだと思う。

委員：コラムの中に、事例などを入れて柔らかい表現で書くと良いと思う。一つの施策を読むだけで議論ができるようにものになれば良い。

委員：わかりやすくするために、漫画のようなものを考えられないか。

委員：軽やかで弾むような感じが出れば良い。市民にわかりやすくするべきで、難しくする必要はないと考える。

委員：年代などのカテゴリー別に分けるなどの工夫があっても良いと思う。

コンサルタント：他の自治体でもそういう議論はある。計画書の中身を読みやすくするというのは大事であるが、一方で行政計画でもあり、予算が組まれていくことも考えると、あまり体系を緩くするわけにもいかない。市民に読んでもらえるような PR の仕方として、施設の案内、事業の取り組みをどう案内していくかは、別途アクションプラン等で取り組んでいる自治体も多い。一方で、これだけ議論が出ているように実現化方策という言葉は堅いので、市民が読みづらくなならないように修正していきたい。また先ほど委員から指摘があったように、計画書のどの頁から読んでも読めるように、読みやすくする工夫をしておき、現状と課題は参考資料に記載することを考えている。現段階で、現状と課題を載せているのは 11 頁だけである。通常の計画書では、アンケート調査の結果や人口推移などの自治体に関する基礎データが始めに数 10 ページの量が挿入されているものが多い。本市ではそのような構成では市民に読んでもらえないと考えて、結論から示すために、現状と課題は一番後ろに回すなど、わかりやすい計画書にしようとしている。文章も他の行政に比べると平易なものになっていると思う。

会長：今の話のとおり、他の行政の計画書はもっと堅いものが多い。それでも、今回の素案が堅いというご指摘が多いのは事実なので、事業計画や予算という現実的な事項に関わる計画書であることを踏まえた上で、今回の素案をベースに、各委員の意見を補填して取り入れていくという形で良いか。前半の段階で、かなりドラスティックに構成を変えている。これは事務局の尽力によるものだと思う。これが形になれば本市の計画書は、かなり突き抜けているものになると個人的には思う。「実現化方策」や「カルティベーション」については改良の余地があると思うが、代替の言葉はあるか。

コンサルタント：「実現に向けて」や「計画の推進に向けて」などになるかと思う。

会長：キックオフといった言い方も良いと思う。実現化方策については一旦保留にしたいと思う。後日アイデアなどがあれば事務局まで伝えてほしい。3つの推進力（3C）についてはどうか。

委員：3Cという言葉は良いと思う。「3C」を前面に押し出すという考え方もある。

委員：最後まで読まないで実現化方策が出てこないのもったいない。それぞれのCについて説明し、それは何頁に説明があると記載すればよい。

委員：計画の概要のような形で、冒頭に3Cを説明するような記載があっても良い。インパクトがあると良い。

委員：リード文の「豊かなまちづくりを願う多摩市民の想いを、スポーツを通じて実現する運動的な展開（ムーブメント）を推進するエンジンです」という文章がすごく良い言葉だと思った。

委員：実現化方策はよくできている。しかし、行政内で読まれるものとしては良いが、市民が読むにはわかりづらい。

会長：議論を聞いていると、実現化方策で書かれている内容はとても良く、「3C」の考え方も理解できてきた。ただ、掲載されるのが49頁からなのでもったいないので、短くまとめたものを冒頭に持ってこられないかということであった。

事務局：「3 基本目標」と「4 施策体系の考え方」の間に、丸ごと実現化方策を移動させるのはどうか。

会長：ロジックとしてはつながると思う。どのように思うか。

委員：冒頭の市長の挨拶の中に実現化方策の内容を盛り込んでもらえないか。

事務局：実現化方策の内容をいろいろな場所で散りばめて、今回の案のように後方で改めて実現化方策を載せるという考えも良い。

会長：本市といえば3C というように、3C をもっとアピールしたら良いという意見だと思う。事務局から提案のあった実現化方策を前方に移動させる案や、市長の挨拶など前方に記載し、50頁にある3Cの図解のようなもので補う案が良いということが良いか。

委員：それで良い。

委員：17頁の「5 施策の体系」に3Cと書いてもよい。

会長：「3C」はキーフレーズになる。事務局はまとめられそうか。

事務局：検討したい。

会長：本日この場でできるだけ決めたい。それで、次回審議会前に考えがまとまったらメールで事前にお伝えし、それに対して意見があればほしい。そのように進めてもよいか。

委員：それで良い。

会長：「Ⅲ 施策の展開」の各施策に記載されている「取り組み例」については、行政だけではなく民間団体の取り組みも紹介することで良いか。民間団体の取り組みは、取り上げた団体と取り上げない団体が出てきてしまう部分があるので、そのことが原因で民間団体同士で軋轢が生まれないように慎重に取り扱う必要もある。

委員：民間団体の取り組みを入れる危険性について、事務局はどのように考えているか。

事務局：例えば、施策「1-1 街なかにスポーツのある風景づくり」についていうと、行政の取り組みだけでは面白いことができない。そういう場面では、民間団体が取り組んでいる面白い事例を紹介したい。

委員：これからやろうしていることも入れて良いのか。

事務局：入れて良いと考えている。

委員：コラム欄については、事例候補の部分に（多摩市）と記載があるものは、本市の行政の取り組みを指しているのか。

事務局：行政や民間に関係なく、市内で行われている取り組みという意味である。

会長：民間団体がどのように感じるかについては、配慮が必要だと思われる。

委員：体育協会からは何か意見が出されるかもしれない。

事務局：体育協会の取り組みとしては、ウォーキングサッカーを記載している。

委員：コラムについては、読んだ人が自分も関わられる、関わりたいと思えるような案内があれば良い。

委員：その通りだと思う。

事務局：事業紹介のようにしてしまうと、数年後その活動が無くなった場合の対応を考える必要がある。

委員：事例を必要に応じて更新していけば良い。時代はどんどん変わっていくので、それに対応していく柔軟性が求められる。

事務局：計画書では難しいので、HPなどで紹介するといった対応はできるかもしれない。

会長：紹介する取り組みが将来的にも続くという担保があるものなのかという点は考慮したい。「何年現在」と記載する対応も考えられる。

コンパウト：取り組み事例に変更が出てくることを踏まえコラムという枠を設けて取り組みを紹介できるようにしている。したがって、それよりも大事なものは、コラムを読んで各施策の内容を理解してもらえるのかということであり、この点がクリアされることが先決である。

委員：以前審議会でも説明があったが、市民アンケート調査の結果を受ける内容の事例を掲載することだったと思う。今の説明にもあったがそうした考え方がベースにあることを忘れてはいけない。取り組み例はいくらでも出てくる。それから、取り組み例は図や写真などで見てわかるようにすることが重要である。

委員：ラジオ体操だったら、実施場所が紹介されていれば良い。本格的にスポーツをする人は自分で情報を調べて探すと思われるので、そうではない人へスポーツしてもらうためのアプローチが必要である。

委員：高齢者など、みんなで集まってウォーキングするようなイベントはないのか。

事務局：健康推進員は、月に1回市内3カ所で月例ウォーキングを行っており、そうした取り組みは市内にも既にある。

委員：昨年10月の第2回審議会で、事務局よりスポーツ事業一覧が配布された。あれは網羅的に示されているし、みなさんがいっていたことを網羅した資料になる。

委員：コラムに係る団体をあわせて記載できれば良い。

委員：それをすると民間団体の宣伝になるので、事例の選定が難しくなる。

会長：アンケート調査などで浮彫になった課題への解決策になる事例を記載しているといったような、エクスキューズを冒頭に記載することが必要かもしれない。

委員：まさに実現化方策に書かれている「コミュニケーション」を担当する方々が検討していくことではないか。

コンパウト：コラムには写真を掲載するが、取り組みが紹介されているホームページから引用するつもりで考えている。そうした場合、URLまで掲載せずに、引用先がわかる程度で主体名だけ記載してあれば良いか。コラムを読んで興味を持ってくれた人が、自分でインターネットなどを使って調べられるようにしたいというのが目的である。

会長：それで良いと思われる。

委員：本市のホームページに、そうした事例を調べられる検索エンジンをつくれませんか。

事務局：本市のホームページ内には市主催の事業は掲載できるが、他市他県の事例を掲載することは難しい。

会長：サーチエンジンはあるのか。

事務局：本市独自のものは無い。

委員：体育協会ではスポーツをしたいと思った人がどんな活動をしているのか調べてもらえるようなわかりやすいホームページを作りたいと考えていて、ホームページを製作する講習を実施する



ことを検討している。ホームページを持っている協会が少ないのが体育協会の現状である。

事務局：計画の中では、本市が民間団体の支援をすると記載しており、今言われたような情報伝達に関する支援もできればと考えている。

会 長：実現化方策でいうコミュニケーションにあたる部分だと思う。他に意見はないか。施策の中で競技スポーツについて触れた方が良いという意見があったと思う。この指摘については「3-1 レベルアップに向けた支援」で触れているので、まったく触れていないことはない。この点は問題ないか。

委 員：問題ない。

事務局：昨日実施した体育協会へのヒアリングで、体育とスポーツの違いを書くべきと指摘があったので、冒頭の部分で記載できないか。ただ、知育、食育、体育とつながり教育の文脈で使われる言葉であり、本計画には馴染まない。

委 員：体育協会へのヒアリングの際にスポーツの意味を説明するべきといったのは、体育協会はスポーツという言葉競技志向のものと認識している人が多い傾向にあるので、市民が楽しむためのスポーツという広義的なものであることを理解してほしかったためである。市民にいかにスポーツを楽しんでもらうかという視点を持ってほしかった。

会 長：時間も迫ってきた。本日出された意見は事務局を中心に学識でも確認して修正したものを次回の審議会にかけたい。

事務局：コラムの写真について、利用できそうなものがあれば7月30日（火）までに提供いただければありがたい。

委 員：57頁「多摩市スポーツ推進審議会 委員名簿」の私の所属について、「子ども教育学科」を「こども教育学科」に修正してほしい。

会 長：それぞれ自分の所属を確認してほしい。それでは、最後に一人ずつ意見をいただきたい。

委 員：本日は良い議論ができたと思う。

委 員：スポーツは楽しむことが重要である。本当は市民が楽しいと感じた時にそれを補助・斡旋してもらえると良い。サッカーだって最初はボールをただ蹴っていたものが、今日ここまで大きなものに育っている。小さくても良いので、みんなで助け合っってそういうものを本市で育てて行けたら良い。

委 員：計画書が出来上がった時、計画ができて終わりではなく、市民みんながスポーツに触れてもらえるかが重要である。そのために、私たちスポーツ推進委員も活動していきたい。

委 員：先日タウンニュースで本市の総合計画第3期基本計画のお知らせが載っていた。スポーツ推進計画は総合計画に位置付けられた部門別の個別計画であるので、そうした計画の位置づけなどの勉強も重要だと思った。今後、事務局は庁内で各課とのすり合わせで大変な部分もあると思うが頑張してほしい。

委 員：審議会では、会長はじめ各委員が私のような市民でも話せるような良い雰囲気にしてもらったことに感謝したい。スポーツに関する広報について、本市に住む人は積極的な人が多いので、横のつながりを活かして、引っ越してきたばかりの人にも、情報が伝わるような本市になれば良い。子どものスポーツ教室などの習い事について、その人に合った教室はどれかわかりやすくなれば良い。中にはオリンピックを目指せるような子どもがいると聞く。そういうことでもっと盛り上がってほしいと思う。そして子どものスポーツを通じて、親子でもつながっていけ

るのではないか。本日のようにこうした場でスポーツについて語られて、良い市になれば良い。

委員：体育がスポーツという言葉に変わり、私たちはスポーツの過渡期にいる。世代も変わっていくと思うが、一方で組織の体質は変えづらいところもある。やりづらいこともあるだろうが、このような場所で継続して議論していけば少しずつ変わる。私は外国でサッカーをした経験があるが、一緒にプレーした人たちはとても楽しそうだったのが印象的である。日本ではみんな真面目に走ってしまう。外国では高齢者も参加してウォーキングサッカーではないがゆっくり走ってみんなで楽しんでいた。そういうスポーツの文化を本市でつくりたい。サッカー競技場でボランティアがゴミ拾いをしているのを良く聞くが、本市で行われるロードレース大会でも、応援した後にゴミ拾いをすれば環境に対する取り組みにつながる。そういうボランティア精神を育てていければ良いと思う。

委員：計画が出来てから、どう本市のスポーツ推進に協力できるかを考えている。大学も学生と一緒に関わっていきたい。やはりスポーツなので、楽しみながら取り組むことが大事である。仕事が増えていくと、どうしてもしがらみも出てきてしまう。学生も忙しくて大変な部分も出てきている。いろいろな主体がつながっていければ、課題を解決することにつながる。大学だけで取り組むのではなく、様々な人たちが一緒になれば課題は解決していけると感じる。

会長：本市を知れば知るほど、素敵なまちだと感じている。次回はパブコメ案の確認となる。

### 【3 その他】

第3回審議会について

日時：8月8日（木）13：00～15：00 本庁4階401会議室

### 【4 閉会】